

中野区教育大綱

2037年。今年生まれた子どもたちが成人となるころ、私たちを取り巻く世界は、現在と大きく変わった姿をしているでしょう。グローバル化の進展や人口減少・高齢化、ロボットや人工知能の急速な進歩など、今起きていることは更に進み、同時に予測のつかない多くの変化が重なって、社会のあり方や人の生き方、価値観なども現在とは異なったものになっていると思います。

大きく変化する時代の波に適応して行かなければ、私たちは生き残ることは出来ません。変化を的確に捉え、新たな価値を生み出すことで、次の時代の繁栄をつくり出すことが出来ます。

しかし、時代が移り変わり、人々の暮らしぶりが変わったとしても、人として生きる上で変わってはいけないものがあります。「豊かな人間性を身に付け、よりよい人生を送るため、自ら成長し続ける姿勢」、「人としての尊厳を守り、他を思いやる心」、「家族を大切にし、愛情と責任を持って支え合う家庭」、「人々が協調し、守り合って繁栄を目指す国・自治体など共同社会の絆」、「平和を愛し、人類の幸福を目指す志」など、私たちの価値観の根幹をなすものがそれにあたると思います。確固とした価値観があるからこそ変化に対応することが出来るとも言えます。

守るべき人としての根幹的な価値を大切にしつつ、時代の変化を適切に受け止め、より良い社会に向けて変化をリードする。そうした人材を育て、世に送り出すことが、中野区の教育の目指すところです。

このような観点から、区は、中野区で育つ全ての子どもたちに対し、学校教育、地域活動、行政施策、健康教育などを通して成長のための指導や支援、機会・環境の提供を保障します。また、成人した人も含め全ての区民が、自ら学び、自らの健康を高め、積極的に社会と交わり、社会貢献することを通じて、生涯に渡って成長し続け、自己実現することのできる地域社会づくりを推進します。

こうした中野区の教育に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を、中野区教育大綱として以下に定めます。

1 基本理念

中野区は、以下の基本理念に基づいて教育施策を推進します。

- ・教育の充実・発展に努めるために、区政の全ての面を通じて施策の連携を図ります。
- ・知徳体のバランスを重んじ、多様な体験と実践による学びを推進します。
- ・自己学習、相互学習の二つの面を大切にし、自ら学ぶ力を養います。
- ・一人ひとりがその個性に応じた成長の機会が得られるよう環境整備と適切な保護・支援を行います。
- ・子どもたちの成長を見守り、支える家庭・地域・学校・関係機関の協力を進めます。

2 中野の教育がめざす人物像

この大綱では「中野の教育がめざす人物像」を以下のように定めます。

- ・自らの力で道を切り拓く、進取の気概を持った人
- ・多様な人間性を認め合い、思いやりにあふれる人
- ・公德心に富み、社会に役立つ人
- ・家族、わがまち、そして自らの祖国を愛する人

3 中野の教育のありかた

中野の教育がめざす人物像を育むことを目標として、以下の取り組みを進めていきます。

◆未来を拓く力を育む教育

幼児期は、健康・生活習慣、人とのかかわり、環境認識、言葉、表現力など、人格形成の基盤を形作る重要な時期です。幼稚園や保育園をはじめ、家庭、地域など幼児の育成に関わる関係者の全てが共通の認識のもと環境整備や指導を行うとともに、学校教育への円滑な接続と連携を進めます。学校では、社会生活や学習の全ての基本となる国語力、これからの社会の発展の大きな原動力である科学技術につながる数学・科学力、多様な人々との交流や相互理解のための語学・コミュニケーション能力など、人間として基礎となる力を着実に身につけるとともに、一人ひとりの個性や関心に応じて発展的な学習が出来ることを目指します。そのための環境の整備、教育人材の確保育成など、効果・効率性に配慮しながら、可能な最大限の条件整備に努めます。また、誰もが生涯にわたって、それぞれの個性・能力に応じて学び、活動できる機会を地域の中に広げていきます。

◆多様性を理解し、自他を認め合う社会を目指す教育

個人や社会の多様性を理解し、相互に尊重しあう心の教育に力を注ぎます。世界の人々の持つ文化・歴史・国籍など様々な背景をありのままに受け止め、偏見や先入観にとらわれない公平平等な価値観を育みます。また、どの子もそれぞれの条件に応じて必要な支援を受けながら成長することの出来る特別支援教育の拡充に努めます。地域では、誰もが自らの個性や特徴、年齢、性別、思想信条、社会的少数派であることなどによって障壁を感じることなく活動することのできるユニバーサルデザインの考え方に基づいて、まちづくり・人づくりを進めます。

◆ 主体的な健康づくり・スポーツ実践に結びつく教育

主体的な健康づくりによって、生涯にわたり、生き生きと健康に生活する力を培うために、学校・家庭・地域での食育や体力向上の取組など健康を自らつくる教育を推進します。正しい食生活や望ましい食習慣を確立するため、栄養や調理、食文化についての基本的な素養を身に付けることを進めます。自らの体調を管理することができるよう、心身の機能や感染症、生活習慣病、がんなど誰もが注意しなければならない疾病について基礎的な知識を身に付けると同時に、健診や予防接種をはじめ、健康の自己防衛への主体的な取り組みを誰もが習慣化することを目指します。また、スポーツは健康面ばかりでなく仲間づくりや娯楽、文化的な側面でも大きな意義をもっています。全ての人がスポーツの楽しさや心身への効用を実感し、日常的な運動習慣を身に付けることができるよう環境整備を進めます。

◆ 社会を築く力を育む教育

公共のためを思う心や、自らの経験、知識、技能などを、よりよい社会づくりに活かそうとする意欲を涵養していきます。学校教育では適切な指導のもと、学級、学年、地域班、部活動、学校など、様々な単位で成長段階に応じて、自主的自治的な活動に取り組み、公共的課題に対する主体意識を涵養します。地域に開かれた学校づくりを進め、地域の人々との交流や活動への参加などを通じて、公共心や社会への帰属意識や規範意識を育みます。また、年齢や性別を問わず、全ての区民が、自らの意志や条件に応じて社会参加でき、社会貢献を通じて自己実現することのできる全員参加型の地域社会づくりを進めます。

◆ 確固とした価値観を育む教育

ふるさとや国を愛すること、家族や他者との絆、自他の生命を大切にすること、平和を希求すること、など、人として生きる上で大切な価値観を身に付ける教育を進めます。「地球規模で考え地域から行動する」人間を目指し、自らの根拠となる国をよく知り、愛するとともに世界に目を向ける、未来志向の生き方を身に付けることを目指します。学校教育の中では、文学、芸術、音楽、歴史など、「ほんもの」の文化にふれ、感動や共感、喜び、悲しみなどを実感する中で、豊かな価値観の形成が出来るような機会を充実します。また、区民が、豊かな芸術文化に親しみ、鑑賞や創作を楽しむことができること、書物や音楽、映像などの知的資産に何時でも触れることができ、自らの暮らしを豊かにすることができるよう条件整備に努めます。

平成29年3月

中野区長 田中 大輔